

第42回全日本実業柔道個人選手権大会戦評  
(主に当連盟加盟チーム選手を中心)

女子70kg級

女子70kg級はベテラン今井が手に汗握る熱戦を制してV4達成。

優勝した了徳寺学園のベテラン今井優子四段は、2試合連続一本勝で準決勝戦に進み、大住有加参段(JR東日本女子柔道部)と準決勝戦で対戦。新鋭大住に対し、今井は3分13秒と4分19秒に有効二つを奪う。

準優勝の三井住友海上火災保険の上野巴恵参段は、第3回戦で新人大野陽子参段(コマツ)と延長戦をフルに戦い、旗が分かれる接戦を制して準決勝戦に進出。準決勝戦では小島佑香参段(JR東日本女子柔道部)から3分47秒、左大内刈から内股へ変化して一本を奪う。

準決勝戦第1試合

3 小島 佑香	内股	○ 3 上野 巴恵
(JR 東日本女子柔道部)		(三井住友海上火災保険)

準決勝戦第2試合

3 大住 有加	(優勢勝)	② 4 今井 優子
(JR 東日本女子柔道部)		(了徳寺学園)

決勝戦

3 上野 巴恵	(優勢勝)	③ 4 今井 優子
(三井住友海上火災保険)		(了徳寺学園)

開始43秒、上野の左小外掛の技ありは合議により有効に変更される。1分51秒には、今井が右背負投から、所謂「腕返」気味に反転すると、後ろに重心を掛けた上野は勢い付いて後方に倒れ込み、技あり。2分20秒、今度は上野が低い右一本背負投で有効を奪う。2分45秒には、今井が先と同様の背負投で上野を転がして有効。その後、リードを許す上野が小外掛で攻めると、守勢の今井に3分24秒、指導1。3分38秒には今井が三度、同じ背負投で二つ目の有効を奪う。4分30秒、組み合わない今井に指導2。両者の手に汗握る攻防もここまで。